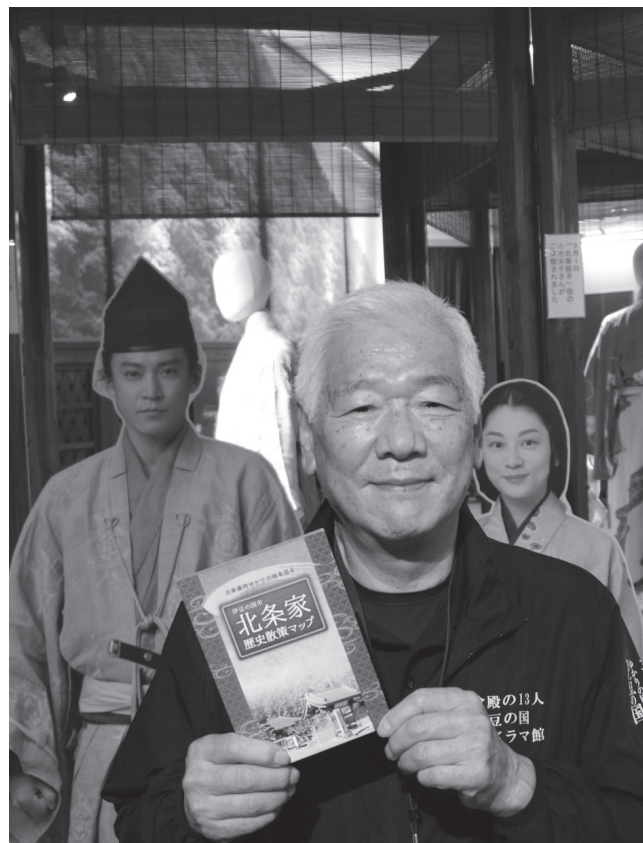




第6回 にしかわ てっし 西川 哲司 さん 鎌倉殿の13人 伊豆の国 大河ドラマ館 館長



観光で地域づくりを

かつて大手旅行社に勤務していた西川さんは、54歳のときに早期退職し、人生のターニングポイントを迎えたといえます。

「旅行業界の将来性に限界を感じた私が、『観光地域づくり』という新しい可能性を見出したのは、観光をプロデュースすることでした」。

そして西川さんは、三重県観光プロデューサーを9年、故郷の『麒麟がくるぎふ可児大河ドラマ館』館長を1年務めたのち、縁あって、今年1月から『鎌倉殿の13人 伊豆の国大河ドラマ館』の館長に就任しました。

連載 ジャルガルの ほのぼの日記

第56回
チンギス・ハーン博物館が開館



皆さん、サエンバエノー。秋も一段と深まり、日だまりの恋しい季節となりましたが、皆さんお変わりなくお過ごしでしょうか。

大河ドラマ『鎌倉殿の13人』の撮影が伊豆の国市内の屋外に設けられたオープンセットなどで行われ、大河ドラマ館やゆかりの地を訪れる人も多く、市内はにぎやかですね。

21年前、私が初めて日本にきた時に大河ドラマ『北条時宗』が放送され、オープニングのテーマ曲ではモンゴル民謡『オルティンドー』が流れたことがありました。その時、歴史に興味を持つていなかったことを後悔したのを思い出します。大河ドラマ『鎌倉殿

の13人』では、ストーリーだけでなく、大河ドラマを活用した観光への影響を身近に感じたことが一番印象的です。

モンゴルは1972年に日本と外交関係を樹立し、今年で50周年になります。1992年頃、連続テレビ小説『おしん』が初めて放送され、その後『ラブリエネレーション』、『東京ラブストーリー』、『ひとつ屋根の下』、『カーネーション』などのテレビドラマがモンゴル語吹替版で放送されたことをきっかけに日本語を勉強する人が増加し、モンゴル人にとって日本はもっと身近な国になったように思います。

先月、ウランバートル市内に新たにチンギス・ハーン博物館が開館され、約1万4千点の収蔵品が展

示されています。その中には、在徳島モンゴル国名誉領事の協力で皇居内に保管されている『蒙古襲来絵詞』や奈良県の天理大学図書館に保管されている『チンギス・ハーンのグレゲ（通行証）A級複製』が贈呈され、初めてモンゴルで展示されました。鎌倉時代にさかのぼると、アジアからヨーロッパにまたがる強大なモンゴル帝国を創建したチンギス・ハーン、その孫のフビライが日本に攻め込み、博多湾西部に上陸した歴史があります。このようにモンゴル国内および世界中から集められた歴史・文化財がたくさんの人々を鎌倉時代へタイムスリップさせるでしょう。

大河ドラマのお陰で伊豆の国市が注目され、こんな歴史的な場所に住んでいることを誇らしく思います。地域の誇りを後世へ伝えるためにも、歴史を活用したまちづくりは大事だと思いました。

さて、最後にお知らせがあります。11月6日（日）に反射炉自然公園でゲルを設置し伊豆の国ふる

さと博覧会とコラボのモンゴル文化体験イベントを開催します。伊豆の国うま広場さんの引き馬体験など、モンゴルの文化に触れるコンテンツが盛りだくさんです。詳しくは20ページをご覧ください。それでは、バイタルタエ。

協働まちづくり課
☎ 055(948)1412



チンギス・ハーン博物館開館式

かんたん手話講座 ③1

どこ？

「どこ？」の手話は、指を軽く曲げた手を指を下に向けて置くように軽く下ろす「場所」と人差し指を立てて左右に振る「何？」を続けて表します。眉を上げて問いかける表情で表現しましょう。



障がい福祉課
☎ 0558-76-8007 FAX 0558-76-8029

「デフリンピック」を知っていますか？

デフリンピックというろう者のオリンピック大会は、1924年から4年に一度開催されています。国際手話や目で見てわかるスタートの方法などの特徴があります。2025年には日本で初開催され、自転車競技は伊豆市で行われる予定です。